

令和4年度 立花地区市政座談会 提案課題と回答

日時：令和4年5月25日（水）午後6時30分～

場所：立花地区交流センター

■提案課題①

さくらまつりの交通渋滞について

➤市からの回答

○さくらまつりの交通対策について

- ・緊急車両、観光バス、シャトルバス、タクシー、路線バス等の公共交通と対象地域にお住まいの方の車両の通行を確保するため、平成30年度から珊瑚橋の交通規制を実施しています。

	入込数	自家用車	観光バス	シャトルバス(割合)	渡し舟
R 4	172,000人	14,742台	480台	2,431人(1.41%) (土日：2日間3経路) (平日：2日間1経路)	運航中止
R 3	55,000人	11,744台	127台	1,206人(2.19%) (土日：2日間3経路) (平日：2日間2経路)	運航中止
R 2	まつり中止				
H 31	440,000人	20,049台	1,238台	5,198人(1.18%) (2日間4経路)	8,692人
H 30	433,000人	18,572台	1,136台	4,935人(1.14%) (7日間4経路)	9,962人
H 29	477,000人	24,915台	1,298台	3,117人(0.65%) (6日間3経路)	9,149人

- ・交通規制の実施により、渋滞時間の短縮が図られ、バス・タクシーがスムーズに運行できたほか、シャトルバスは最短20分程で展勝地まで到着し大幅な時間短縮が図られ、観光客・住民から一定の評価を得ました（30年度以降も継続実施）。
- ・実行委員会では平成30年度の規制実施後に総括を行い、効果的な情報発信やシャトルバスの柔軟な運行、駐車場内の効果的な誘導・ルートの見直し等の課題が示され、次年度以降改善を図りながら取り組んできています。

- ・入込数に対するシャトルバス利用者の割合は増加傾向（H29：0.65%、H30：1.14%、H31：1.18%）にあり、認知が進んでいると考慮されます。

【シャトルバス運行日における乗用車利用の減少割合】

	駐車台数 A	シャトル利用者		展勝地に来たと推測される 台数 A+C=D	シャトルバス運行により減少した乗用車の割合 C/D*100
		利用者数 B	乗用車に換算した 台数 B/2=C (1台に2名で換算)		
R 4	5,123台	2,431人 (土日：2日間3経路) (平日：2日間1経路)	1,215台	6,338台	19.17%
R 3	4,254台	1,206人 (土日：2日間3経路) (平日：2日間2経路)	603台	4,857台	12.41%
R 2	まつり中止				
H 31	3,952台	5,198人 (2日間4経路)	2,599台	6,551台	39.67%
H 30	5,427台	4,935人 (7日間4経路)	2,467台	7,894台	31.25%
H 29	8,669台	3,117人 (6日間3経路)	1,558台	10,227台	15.23%

- ・シャトルバス運行日において、シャトルバス利用者を乗用車利用に換算（2人/台）すると、平成29年は15.23%、平成30年は31.25%、平成31年は39.67%減少させたと推測されます。距離に換算（5m/台）すると、運行期間中、平成29年は7.8km、平成30年は12.3km、平成31年は13.0km程度の渋滞が緩和されたと推測されます。
- ・一方で、県道14号の渋滞自体は解消されていないため、一般車の渋滞対策については引き続き検討が必要です。今年については、渡し舟の運航が中止となったことにより、シャトルバス以外の移動方法がなかったため、一般車の流入を誘発する要因となったと考えています。また、天候にも恵まれ、平日も土日に相当する入込があったため、平日の交通対策についても検討が必要です。
- ・引き続き、JRやバス等公共交通機関利用の呼びかけや渋滞情報の効果的な発信についても取り組んでいきたいと考えています。また、今年の反省をふまえ実行委員会で来年度に向け検討していきます。

■提案課題②

立花地区の除雪作業について

➤市からの回答

○令和3年度の除雪の状況

- ・東北全体が平年より気温が低かったため圧雪の剥ぎ取り等の作業に苦慮した。
- ・平年、令和2年度よりも降雪量が多かった。

○改善策

- ・令和3年度の苦情件数は例年並みであり、市民より要望があった場合は速やかな対応に努めて参りましたので、今後についてもパトロールを徹底し、気象変化などを的確に把握のうえ現地状況に応じた除雪作業を行っていきます。
- ・地域から頂いた意見を基に除雪業者と個別打合せを行い、地域に合わせた除雪作業を徹底します。